

鵜戸神宮：鵜戸山八丁坂

鵜戸山八丁坂（「鵜戸神宮へつながる八丁の坂」、丁は日本の古い長さの単位で 109 メートルに相当）は、鵜戸神宮への最も古い参道です。815 段の石段は鵜戸港から伸び、少なくとも江戸時代（1603～1867 年）から使われてきました。石段の中央部は、何世紀にもわたって踏み続けてきた無数の足によってすり減り、明らかに周囲よりも低くなっています。地元の言い伝えによると、この石段は頭の上でバランスを取りながら海岸から石を運び上げた尼僧によって作られました。